2015年度乳価３円60銭上げ　値上げは５年連続　2015年１月10日

用途別の原料乳価格 2015年度主要分（消費税抜き）

主な用途		1kg当たり単価	値上げ額
飲　用		117円40銭	3円
加工向け（バター・脱脂粉乳など）		74円46銭	2円
チーズ向け	ゴーダ・チェダー	68円	5円
	その他	66円	5円
生クリームなど向け	生クリーム	81円50銭	3円
	脱脂濃縮乳	75円46銭	3円

ホクレンは９日、大手・中堅乳業メーカーとの2015年度の乳価交渉が９日にまとまり、全用途の平均価格「プール乳価」を生乳１㌔当たり平均３円60銭引き上げることで決着したと発表した。値上げは５年連続で、４月１日の取引分から適用する。

用途別では飲用・はっ酵乳（ヨーグルト）向けが１㌔当たり前年度比３円上げ、脱脂粉乳・バターなど加工向けが２円上げ、ゴーダ・チェダーチーズ向けとその他チーズ向けがいずれも５円上げ。生クリーム、脱脂濃縮乳がそれぞれ３円上げとなっている。

乳価はホクレンが乳業メーカーと交渉し、用途別に決める。悪化する営農環境を背景に交渉が長引くことが多く、１月に決まるのは近年では珍しい。今回の発表はホクレンの全取引先（141社）のうち大手・中堅各社（16社）との合意で、正式決定は全業者との合意後となる。

飲用については14年度の乳価交渉が妥結しないままだったため、14年度分は実質値上げなしの据え置きとなる。

川井牧場ＭＭＪ出荷へ ホクレン離脱道内２例目　2015年１月30日

ホクレンの生乳集荷からの離脱を決めた帯広市川西町の川井牧場（川井教史社長）が２月２日から、群馬県の生乳卸会社ＭＭＪ（ミルクマーケットジャパン）に生乳出荷を開始する。ホクレンを離脱し、同社に出荷するのは道内２例目。

同社は搾乳牛約200頭を飼養し、年間出荷乳量約2000㌧の道内約6000戸の酪農家中、上位150位ほどの酪農法人。飼料販売の川井飼料（市川西町、同社長）が母体で、2000年に牧場を立ち上げ、02年に法人化した。30日でホクレンへの出荷を終えた。

ＭＭＪは道内では昨年４月から幕別町の田口畜産から生乳を集荷している。川井牧場の川井社長によると、2006年に需要減などで生乳が余って廃棄した「生産調整」以来、ＭＭＪは道内で集荷先を探し、同牧場にもたびたび訪れていたという。

川井社長は「生産調整後、生産を抑えるために牛を淘汰し、生乳を搾らない乾乳時期を早めるなどした結果、牛の病気や分娩時期のずれなどに影響し、いまだ経営に影響を与えている。９年たっても立ち直れていない」と強調。ホクレンからの離脱について「農協や関係機関など、今までお世話になった方々には感謝している。息子３人が牧場で働いており、後を引き継いでもらうために経営判断として自己責任で決断した」と話している。